

MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU

三春わが街

MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU

■コミュニティだより

VOL. 101 (年4回発行)

■発行日 令和3年9月30日
 ■発行 三春まちづくり協会
 ■編集 三春まちづくり協会広報部会
 三春町大字貝山字泉沢100-1(旧若駒寮)
 TEL/FAX (62) 3988



復活した三春馬車鉄道碑

旧ヨークベニマル跡地の入り口付近、現在の中町公民館付近に、ベニマル移転により一時的な場所に保管されていた三春馬車鉄道会社跡碑が、今夏再設置されました。併せて、ステンレス製の碑文も設置されました。

明治二十四年から大正四年までの二十四年間、三春と郡山間には馬車鉄道が走っていました。三春に集まる田村郡内の物資を馬車鉄

道に乗せ、東北本線が開通した郡山駅まで輸送する為です。意欲的な三春の商人達が結束して「三春馬車鉄道株式会社」を興して開通

させたのです。このことを顕彰する石碑は、昭和五十九年、中町にあった桐屋商店の橋本捨五郎氏によって建てられました。が、ヨークベニマルの移転により、今で歴史民俗資料館に保管されておりました。街並部会では、町民の皆さんに知っていただくため、中町公民館近くにこの碑を復活させましたのでご覧ください。



【碑文内容】
 馬車鉄道は、明治十五年(一八八二年)、客車をイギリスから輸入し、新橋と日本橋間に開業した東京馬車鉄道を皮切りに全国に広がりました。
 三春馬車鉄道は、明治三十三(一九〇〇年)に開通した大阪馬車鉄道より九年前の、明治二十四(一八九一年)に設立、開通しました。当時、田村郡内の産物は三春に集まったこと、第九十三国立銀行をはじめ、税務署や電信分局・郵便局などの諸官庁があったことから、郡山への物資運搬、人の移動のために開通されました。運行は一日六往復、三春から下り坂の郡山へは1時間40分、郡山からは1時間10分を要しました。乗車料金は25銭で、米1升の値段でした。
 大正三年、平郡線(磐越東線)が開通し

馬車鉄道は、明治15年(1882)、客車をイギリスから輸入し、新橋と日本橋間に開業した東京馬車鉄道を皮切りに全国に広がりました。
 三春馬車鉄道は、明治33年(1900)に開通した大阪馬車鉄道より9年前の、明治24年(1891)に設立、開通しました。当時田村郡内の産物は三春に集まったこと、第九十三国立銀行をはじめ、税務署や電信分局・郵便局などの諸官庁があったことなどから、郡山への物資運搬、人の移動のために開通されました。運行は1日6往復、三春から下り坂の郡山へは1時間20分、郡山からは1時間10分を要しました。乗車料金は25銭で、米1升の値段でした。
 大正3年、平郡線(磐越東線)が開通した影響で、翌4年(1915)廃業となりました。しかし、このレールや客車など一切が、小名浜の磐城海岸鉄道会社に売却され、売却されました。

三春まちづくり協会

た影響で、翌四年(一九一五年)廃業となりました。しかし、このレールや客車など一切が、小名浜の磐城海岸鉄道会社に売却され、売却されました。

「お知らせ」

街並部会では、町内に設置してある三十五基の石柱の拓本ラリーを随時行っております。個人でもグループでもお好きな時間に行うことが可能です。七ヶ所拓本した方には協会から記念品を差し上げいております。詳しいお問合せは、まちづくり協会

TEL62-3988または090-8922-5445(栗原)までご連絡ください。

座禅体験会報告

生涯学習部会

今年度の生涯学習部会の活動は、座禅を体験することと致しました。実際に体験する機会が無いであろうというところが理由でした。福聚寺さんで毎月座禅会を開いていることを知り、お願いしたところ、快くお引き受け頂きました。七月二十五日、福聚寺本堂において、

午後七時薄暗く静寂のなか、始まりました。参加していた二十五名のうち、私達まちづくり協会の参加者が十一名。そのほとんどが初体験ということで、最初に座禅のしかたの説明があり、スタートしました。約二十分の修行を行い、十分の休憩が入り、それを四回繰り返して終了しました。その後、お茶をいただきながら、住職のお話を伺って、お開きとなりました。眠気を覚ますため、警察(きょうさく)で肩を打っていただく行為は知っていましたが、私も座禅は初めてなので、どれだけ痛いのか知りたくて、お願いして打っていただきました。想像していたより、非常に痛かった初体験でした。



小学校一年生の親子植樹祭

地域部会

圓谷 彰孝

梅雨前線が活発な、文月の一日、街中央部に建設中の「三春花の丘公園」周辺から、子どもたちの歓声が上がった。

新一年生の節目を祝う、記念の植樹会だ。この日、参加したのは、親子連れ六十一人。公園の一角に設けられたスペースに、花モモの苗木を植樹しようという試みだ。

サマー・イベント。三か年計画の最終年度を迎え、「子どもたちの記憶に残る行事を」と企画されたものだ。

令和元年から始められた工事は、すでにスギやケヤキなど、森林の伐採を終え、優れた景観を誇る、散策路の設置がほぼ完了した。最終年である本年は、植栽の推進を中心に、人と自然の融合を満喫できる天上の交流拠点として、施設の充実を図る方針だ。



「心をつなげて、感動を味わいましょう」内藤 忠・NPO法人理事長

よって、花モモの苗木を散策路わきに植え付け、木札を添えるという趣向だ。共同作業をとおして、親子愛、郷土愛を育もうというねらいがある。



何を書いているの？

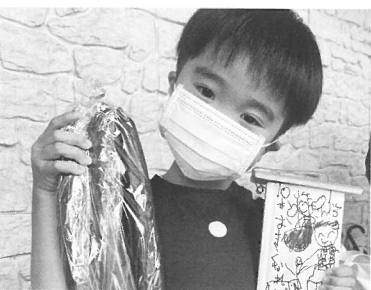
この日は、あいにくの雨。公園の中腹に設けられた植樹スペースでの作業は見送られ、公園の麓にある、旧・三春中体育館の、屋外での催しとなった。



一字一字に願いをこめて

その様子を見守っていた、相川義則さん（三春まちづくり協会・協会長）は、「一年生は、生活環境やふれあう人が変わり、気を休める間がありません。充分な思いやりといたわりが必要ですが、木札を作成するという、親子の共同作業が、緊張をほぐすきっかけになつてくれたらうれし」と語っていた。

植樹祭を企画した、同地域づくりの会・副理事の井上広志さんは、「植樹会の呼びかけに、



でき上った作品と、ごほうびのキュウリ

多数の新入学児童と、保護者が参加してくれたことは、大きな喜びです。雨が降りだし、実際の植え付けはできませんでしたが、自分の名札がついた花モモが公園の一角にあることは、皆さんの記憶に残ると思います」と語った。

最終年度を迎えた「三春花の丘公園」。来年度以降も、同様の企画を継続する意向で、新入児童と保護者による植樹作業は、公園建設の中核をなす事業として、確かな一歩を踏み出した。

《初心に聴く》

シリーズ ⑮

広報部会

吉田 寿雄

今年から広報部会委員になりました。三春町生まれではありませんが、子供の頃は町に行くと三春に行くこと、本屋さん（たぶんカネサン書

店）で漫画本を買い、食堂（たぶん三條屋）でラーメンを食べるのが楽しみで、兄に連れられてよく来たのを覚えています。その後、縁あって昭和六十二年から三春に来てもう三十四年が経ちました。私にとっては第二の故郷ですが、子供たちにとっては三春が故郷です。

近者悦遠者来（ちかきものよろこびとおきものきたる）という言葉が、最近見たある会報誌に載っていました。論語の中の孔子の言葉で「地元の人たちが楽しく暮らしている姿があると、遠くの人たちがそれに惹かれてやってくる。」と言うような意味らしい。今コロナで不要不急の往来が自粛されている時は、地元を歩いて見ると、普段何げなく見ていた三春の街が、全く違った印象で見えて来たり、新しい発見があったりして、日常生活が楽しくなるのではないのでしょうか。少しでもお役にたてればと思いますので、よろしく願います。



編集後記

▼朝晩過ごしやす涼しさになって参りました。今回は三春の歴史の中でも近代化が始まった明治中期に東京から十年を経て三春にも馬車鉄道が開通しました。又鉄道は一八七二年に横浜に初めて開通しその九十年後には新幹線が時速二〇〇km以上を超える驚異的進歩を遂げました。▼二番目には坐禅についてですが、魅力の一つは姿勢を整えられることで、日常生活で猫背など良くない姿勢を整えることができると二つ目はリラックスした時間が取れない人にはゆつたりと呼吸を整え心の落ち着きを得られる。三つ目は人は皆悩みを抱えています。そこで坐禅で落ち着いた心で自分を見つめ直すことができ私もぜひ体験したいと思っています。

▼三番目の植樹会は緑化運動の行事として昭和二十五年に天皇皇后陛下のもと始まりました。今では各市町村で花を中心におこしとして盛んになっています。その手入れはその季節だけで無く年間を通して行うのです。▼今回は一〇一号大台と新たにしました。今後二〇〇号を目指して頑張りますので町の行事への参加もよろしく願います。

《原田 博》

コミュニティだより
「三春わが街」第一〇一号
発行日 令和三年九月三十日
発行 三春まちづくり協会
編集 三春まちづくり協会
広報部会
三春町大字字泉沢一〇一
(六二) 三九八八